

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している ・概ね浸透している ・浸透していない
	課題 昨年度までの研修成果を踏まえ、目指す児童生徒像に迫るための具体的な取組について実践を重ね、深めていく。

※計画書の見方

○「進捗状況」について……………A:検討中 B:着手済 C:令和5年度から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1)目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B C D	<u>ブロックの共通する児童生徒像</u> 主体的に学び、考えを深め、未来を切り拓く児童生徒 <u>学校独自の児童生徒像</u> <u>自ら学び続ける生徒</u> ・基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒 ・既習内容や方法を活用できる生徒 ・自ら課題を見出し、粘り強く学び続ける生徒 <u>心豊かで思いやりのある生徒</u> ・礼儀正しく、進んであいさつのできる生徒 ・互いの良さを認め合い、共に伸びようとする生徒 ・行事やボランティア活動に進んで取り組む生徒 <u>心身ともにたくましい生徒</u> ・何事にもくじけない強い意志を持った生徒 ・美しく整った環境づくりに励む生徒 ・体力向上に積極的に取り組む生徒
2	身につけさせたい 資質能力	A B C D	<u>ブロックでつけさせたい資質・能力</u> A 主体的に学ぶ力(自ら課題を設定し、自ら学習に取り組もうとする力) B 考えを深め、広げる力(他者と協働しながら自分の考えを広げ、深めていく力) C 学びを活かす力(学んだことを活かして課題を解決していく力) <u>学校でつけさせたい資質・能力</u> C 主体的に学ぶ力(自ら課題を設定し、自ら学習に取り組もうとする力) D 考えを深め、広げる力(他者と協働しながら自分の考えを広げ、深めていく力) D 学びを活かす力(学んだことを活かして課題を解決していく力)

3	合同研修組織の設置	<u>合同研修組織部会名等</u> 研修推進委員会・チーフ会議(4月11日実施、7月16日、3月7日実施予定) 合同研修会(5月1日東中、8月21日城ノ上小にて実施予定) <u>学力向上部会</u> わくわく感のある授業づくりについて、研究を推進する。今年度も「対話的な学び“シェアタイム”を効果的に活用し、深い学びにつなげる」ことに焦点をあて研究を進める 【令和6年度の取組予定】 ○「HIGASHI ルーティン」「シェアタイム」の継続、深化→質の向上 ○相互授業参観時における「授業改善シート」の活用による授業改善の実施 ○県学テ・全国学テの分析・授業改善の実施 ○ICTの活用を意識した授業研究 <u>教科等連携部会</u> 教科等横断的な学びを意識した授業を研究する。 【令和6年度の取組予定】 A ○「総合的な学習の時間」を活用した教科等横断的な学びの場の設定(カリマネの見地を加味する) B ○小学校からの学びを意識した「総合的な学習の時間」の授業実践。 C ○「教科のつながり伝承のページ」の周知と活用、見直し。 D <u>交流・連携部会</u> 第1期の交流の取組を継続しつつ、ICT機器を活用した交流など新しい交流の在り方や内容について研究を進める。また、職員の働き方改革の視点で部会のメンバーを中心に効果的な取組について内容等を検討する。 【令和6年度の取組予定】 ○小中合同引き渡し訓練 5月2日 ○連携小学校運動会の運営サポート 6月(城ノ上)10月(増林) ○特別支援学級の交流 ○作品(絵画・書きぞめ・硬筆など)交流 ○中学校教員による6年生の体験授業 →小中連携対応教諭による授業の実施 ○朝のあいさつ運動 ○保健指導に係る交流 ○キャリアノートの引継ぎ ○生徒発信のアイデアによる交流活動 スマホケータイ共有ルールの共通取組 <u>学校独自の部会名等</u> 校内研修推進委員会 学力向上部会 教科等連携部会 交流・連携部会
---	-----------	---

(2)小中一貫教育7つの取組み

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	(授業における8つのポイントの活用) 学習過程の工夫と学習形態の工夫	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など 〈学習過程の工夫〉 ・「東中学校校区スタンダード」、「授業における8つのポイント」を元に学習の流れを示す「HIGASHI ルーティン」を各授業において実践する。 ・「授業の導入と課題設定」、「振り返り」について事例を収集し、効果的な課題設定の在り方や振り返りについて研究、共有化し、実践に生かす。 〈学習形態の工夫〉 ・ペア学習、グループ活動を適宜学習活動に取り入れ、話し合う時間を設定する。 <u>シェアタイム</u> ・グループは3～4人を基本とする。 ・発表場面での「話し方」「聞き方」の約束事を明確にする。 『HIGASHI ルーティン (教師用)』 つかむ・見通す ～主体的な学びへのスタートライン～ 求める・考える ～主体的な学び～ 広げる・深める ～対話的な学び『シェアタイム』～ まとめる・振り返る ～学習のまとめ～ 学習内容の定着と活用、次の授業につなげる 『HIGASHI ルーティン』 つかむ・見通す ～主体的な学びへのスタートライン～ 求める・考える ～主体的な学び～ 広げる・深める ～対話的な学び『シェアタイム』～ まとめる・振り返る ～学習のまとめ～ 学習内容の定着と活用、次の授業につなげる

4	(授業における8つのポイントの活用)	学習過程の工夫と学習形態の工夫	学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ◎生徒の課題に対する意欲や理解は上向きである。 ●生徒の課題への取組の意欲と教員の課題設定に対する意識の間に差異が生じている。今年度も引き続き、課題解決に向けて「HIGASHIルーティン」を重点的に取り組んでいく必要がある。 【P】 (1)「わくわく感のある授業」の日常的な実施による「学力向上」の実現。 ・授業における8つのポイントを意識した授業の実践。 ・工夫のある課題設定と効果的な振り返りの実践。 ・「HIGASHI ルーティン」「シェアタイム」の日常的な活用実践。 ・「シェアタイム」の質の向上 (2)「総合的な学習の時間」を活用した教科等横断的な学びの場の設定。(カリマネの見地を加味) 【D】 (1) - ①全教職員による「HIGASHI ルーティン」の周知・共有。(4月)黒板掲示カードの活用。(通年) A (1) - ②「授業改善シート」を活用した教職員同士の相互授業参観および相互評価。(研究授業時等を中心に) B (1) - ③管理職による教室訪問及び助言による確認と啓発(通年) (1) - ④教職員同士の相互授業参観実施後に、相互評価としてミニ協議会を行う。その際、シェアタイムに関する実践と協議内容を学力向上部会でまとめ、教職員間でシェアタイムの質の向上に向けた授業改善について共通理解を図る。 ② (2) - ①教科等連携部会メンバーを中心に「教科のつながり伝承のページ」の見直し、拡充。(1学期) 【C】 (1) - ③管理職による日々の授業参観における啓発指導の実施。(通年) D (1) - ②④各教科担当による各種学調の分析や越谷市授業改善・学校生活アンケート及び学校評価「授業づくり」の結果による成果の分析。 (2) - ①教科等連携部会メンバーを中心に「教科のつながり伝承のページ」の活用状況の確認。(学期ごと) シェアタイム 東中学校区3校で協議し、「シェアタイム」を創設。 これまでの授業でもペアやグループで話し合う活動は、随時取り入れてきたが、ネーミングを統一し、対話的な学びを充実させるねらいがある。「思いや考えを広げ、深める」ための時間として、○考えの共有、○意見等の比較・検討、○自分の考えを相手に伝わるよう言語化(表現する)を行う。ネーミングは、3校の教員から募集、投票で決定。ネーミングを統一することで、小学校でも、中学校でも、子供たちにとって身近で楽しい時間になるようにしたい。
---	--------------------	-----------------	--

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・「HIGASHI ルーティン」に基づく板書の習慣化を図る ①つかむ・見通す ②考える ③深める ④まとめる・ふり返る ・小学校と中学校で児童生徒のノートを交換し、掲示する ・どんなノートづくりができるようになればよいかを児童生徒にも提示し、段階を踏んで指導する <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ◎「理由をつけて考えを話したり書いたりする」学習活動の取組は十分に行われている。 ◎「HIGASHI ルーティン」に基づく板書の習慣化は教員間で定着している。 ●生徒の「授業では理由をつけて考えを話したり書いたりしているか」の項目で肯定的回答の割合が低下しており、ノート指導について検証する必要がある。 【P】 A (1)「HIGASHI ルーティン」を基盤とした板書、ノート指導。 (2)「思考の足跡がわかるノート」づくり B 【D】 ③ (1) - ①全教職員による「HIGASHI ルーティン」の周知・共有。(4月)黒板掲示カードの活用。(通年) ※NO.4 再掲 D (1) - ②全職員による板書の例示および各教科担当の板書やノート指導をもとにした、教科の特性を生かした板書やノート指導についての協議。(1 学期) (1) - ③学力向上担当を中心としたタブレット端末とノート、大型ディスプレイと黒板の併用による効果を高めることを目指した実践の収集、好事例の共有。(年間) (2) - ①学力向上担当を中心とした「東魂ノート大賞」の実施。各教科担当が「理解までの過程」や「発想の記録」などが書かれた「思考の足跡」がわかるノートを選出し、受賞ノートを各学年廊下に掲示する。(2 学期) 【C】 (1)-①管理職による日々の授業参観における啓発指導の実施。(通年) (2) - ①学校評価で、現状把握と効果の検証を行う。
---	--------------------	---

6	生活規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・「学習・生活面の決まりごと」を全教室に掲示、共通理解のもと指導する。 ・くつのかかとを踏まない ・下駄箱にはかかとを揃えて靴を入れる。等 ・集団行動のハンドサインの統一 ・スマートフォンの使い方の共通理解 ・越谷市授業改善・学校生活アンケートにより成果を検証する。(6月、12月) 東中・城ノ上小・増林小「学習・生活面」の決まりごと→ 学校独自の内容・取組 A B 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ◎学校など公共の場で、ルールやマナーをしっかりと守って生活できている。 ◎学校全体で共通理解して指導にあたっているため一定の成果は出ている。 ○きまりを守る意識や態度の育成についての取組や指導は 継続し、学校の様子を保護者へ発信するなどの取組の充実が必要。 C ○一昨年度より「校則検討委員会」が始動、昨年度、靴、靴下、髪型等について一部校則が変更された。今後も生徒主体で、「安全・安心な風土を醸成」する視点で見直し等を進めていく予定である。 ◎学校だより・学年だより・HP・メール配信等を通して保護者に対する情報発信が十分に行われた。 ◎学校評価の結果から、生徒の「挑戦する心」は成長していると考えられる。 D [P] (1)生活の決まりごと等に対する共通理解(生徒・保護者・教職員)の徹底。 (2)「校則検討委員会」等による、生徒が主体的に参画し、「挑戦」を尊ぶ意識と自己肯定感の醸成。 (3)「東中学校教育総合的向上・改善プロジェクト」(総合プロ)に則り、令和5年度改編された校則を生徒が見直す機会を設定。 [D] (1) - ①生活面の決まりごとについての全校生徒・教職員による共通理解。みんなが快適に過ごすためのルール・マナーとして「東中学校の生活のきまり」、「東中生の心得とマナー」等の提示。(4月職員会議、学年集会等) (1) - ②職員会議、週1回の生徒指導委員会等での現状の把握、改善点へ向けた取組の検討。(通年) (1) - ③HPや各種だより、保護者会等、学校での生活の様子の保護者への発信と望ましい連携が図れる体制づくり。(通年) (2) - ①「校則検討委員会」の活動を活かしたルールや校則に対する見方や考え方の育成と主体的に社会に関わろうとする態度の育成。(通年) (3) - ①第2回生徒総会に合わせた校則検討委員会の実施。(2学期) [C] 学校評価による実態把握、成果の確認	東中・城ノ上小・増林小共通 「学習・生活面」の決まりごと 1 休み時間の過ごし方 ・休み時間のうちに、授業の準備をしましょう。(休み時間＝準備時間) ・前の時間に使ったものはロッカーや机の中に必ずしまいましょう。 ・時計を見て着席をしましょう。(開始時刻と同時に号令がかけられるように) 2 授業挨拶 ・開始時刻になったら係が大きな声で号令をかけましょう。 ・「起立、気をつけ、礼(顔を上げてから)「おねがいします(ありがとうございました)」、着席」を行いましょう。 ・(挨拶の時はイスをきちんとしまいましょう。) ・小学校3年生以上は実施します。 3 清掃 ・無言清掃をしましょう。 4 教室等の出入り ・授業以外で他クラス、他のフロアへの出入りはしてはいけません。 ・非常時以外は、非常口やベランダに出てはいけません。 5 職員室の出入り ・コートやウィンドブレーカー、安全帽等を着ている時は、脱いでから入りましょう。 ・かばんを持って入ってはいけません。 ・職員室のドアをノックし、「失礼します。おはようございます。〇年〇組の〇〇です。〇〇先生に用事がありました。」と言ってから入室しましょう。 ・退室時「失礼しました。」と言いましょう。 6 体育館への出入り、整列 ・無言で(教室前の廊下に並び、移動・整列)しましょう。 ・体育館入退場時も無言で行いましょう。 7 くつ・上履き揃え ・かかとを踏みつぶしてはいけません。 ・下駄箱にはかかとを揃えて靴を入れましょう。 25
---	----------	--	---

6	生活規律の共有化	A B C D	— 東中生の心得とマナー — (1) あいさつをしっかりとしよう ① 家族や地域の人にとしっかりとあいさつしよう。 ② 学年の友だちや部活動の仲間としっかりとあいさつしよう。 ③ 来賓、来校者、先生にとしっかりとあいさつしよう。 ④ 授業のはじまりやおわりにしっかりとあいさつしよう。 ⑤ 特別教室や職員室への出入りの際もしっかりとあいさつしよう。 (2) 学習 ① 真剣に学習に取り組もう。 ② 学習を充実させその成果をあげるため、復習、予習を怠らないようにしよう。 ③ 掲示物や教具を大切に、学習環境を整えよう。 ④ 休み時間は次の授業の用意をし、チャイムが鳴る前に席に着こう。 (3) 生活 ① 室内で騒いだり、廊下を走ったりしないようにしよう。 ② 廊下や階段では、静かに歩くようにしよう。 ③ 学校の道具を使用する時は、係の先生の許可を得てから使用しよう。 ④ 学校の道具や窓ガラス等、公共物をあやまって破損した時は、学級の先生にただちに申し出るようにしよう。 ⑤ 履き物、所持品には名前を書こう。 (4) 清掃 ① 清潔な学校にするようにみんなで協力しよう。 ② 清掃用具は大切に扱い、常に整理・整頓に心がけよう。 ③ 清掃が終了したら担当の先生に報告しよう。 (5) 部活動 ① 所属する部活動には必ず出席し、熱心に活動しよう。 ② 休む場合は、担当の先生の許可を得てから下校しよう。 ③ 一旦入部したら継続して活動しよう。 (6) 社会の一員として責任ある行動をしよう。 ① 学校の決まりやマナーを通して、社会規範を学ぼう。 ② 校外生活においても社会のルールやマナーを守ろう。 ③ 周りの人に思いやりの心を持ち、迷惑をかけないよう心がけて生活しよう。 ④ 世界に向けてボランティアの心を持とう。
---	----------	------------------	--

7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・「HIGASHI ルーティン」の活用 ・「学習・生活面の決まりごと」を全教室に掲示、共通理解のもと指導。 ・開始と同時に係りが号令をかける。 ・「起立、気を付け、礼、おねがいします(ありがとうございました)、着席」 ・あいさつの時はイスを机の下にしまう ・休み時間中に次の授業の準備をする ・学校評価により成果を検証する。(6月、12月) 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ◎落ち着いて学習できる集団作りができているととらえられる。 ◎学校評価からは、生徒の自己肯定感が向上しつつあることがわかる。 A B C D 【P】 (1)学習面の決まりごと等に対する共通理解(生徒・保護者・教職員)の徹底。 (2)「校則検討委員会」等による、生徒が主体的に参画し、「安全・安心な風土を醸成」する視点での校則の見直しや、「挑戦」を尊ぶ意識と自己肯定感の醸成。 ※NO.6 再掲 【D】 (1) - ①学習面の決まりごとについての全校生徒・教職員による共通理解。みんなが快適に過ごすためのルール・マナーとして「東中学校の生活のきまり」、「東中生の心得とマナー」等の提示。(4月職員会議、学年集会等) ※NO.6 再掲 (1) - ②職員会議、週1回の生徒指導委員会等での現状の把握、改善点へ向けた取組の検討。(通年) (1) - ③HPや各種だより、保護者会等、学校での生活の様子保護者への発信と望ましい連携が図れる体制づくり。(通年) (2) - ①「校則検討委員会」の活動を活かしたルールや校則に対する見方や考え方の育成と主体的に社会に関わろうとする態度の育成。(通年) 【C】 学校評価による実態把握、成果の確認
---	----------	---

8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)	ブロックでの共通内容・取組内容など ・「家庭学習のすすめ」を作成し、全学年生徒に配布する。 ・学年ごとに目標時間、内容量を設定する。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ◎テスト範囲の周知時期の前倒しし、定期テスト前諸活動停止期間を従来より長く設定し、生徒の家庭学習時間を確保することができた。 ◎個人の学習時間の累計やテスト結果(上位者)が掲出されるようになり、それを励みに頑張る生徒もいた。 ◎相談室登校の生徒が e-board や配信授業を行うことで学習場面の幅が広がった。 ●AIドリルについて周知徹底と活用の工夫が必要である ●「授業を学ぶ」スタイルから「授業で学ぶ」スタイルへの変革と真の学力の定着を推進するための「定期テストのアウトソーシング」に対する生徒・保護者の理解をさらに進める。 A 【P】 (1)生徒自身が見通しをもって取り組むことができる家庭学習。 B (2)定期テスト等に向けての多角的なサポート。 ③ 【D】 (1) - ①ワークなど提出課題の内容・量・質の検討。(教科間で連携し過重にならないようにバランスにつて配慮する) (1) - ②「家庭学習のすすめ」の作成と配付。(学習担当・毎年度4月) (1) - ③AIドリル、e-board の活用方法の周知。「家庭学習のすすめ」への「AI ドリル活用方法」の掲載。(年度当初) (2) - ①定期テストへ向けた家庭学習の計画作成時間の確保、および学習時間の累計上位者、テスト結果上位者の掲出。(学年担当) (2) - ②定期テスト前の「質問教室」の開催。(各学年、各教科担当) (2) - ③3 学年による「放課後自学教室」の実施。(2 学期以降) (2) - ④学校での取組や支援について、保護者にもたよりや HP 等で周知。(随時) 【C】 (1) - ①提出課題の提出状況、取組状況、定期テストの結果についての考察。(学期ごと、各教科担当) (2) - ①テストに向けての学習計画とテスト結果から家庭学習の取組についての考察。(学期ごと、各教科担当)
---	----------------------	--

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析		<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・各種学力調査結果の分析と指導への活用。指導の工夫を小中間で検討する。 <u>学校の分析結果より</u> ○情報の扱いについて情報を正しく伝えたり、複数の情報を関連付けて生かしたりすることに課題がある。国語の時間の中で、「情報の扱い」や「活かし方」について学ぶ活動を計画的に行いたい。 ○国語のみならず全ての教科において、今後も「分かりやすく伝える」という視点を持って「表現する活動」「条件に応じた文章を書く活動」を計画的に行う。 ○今後も「話すこと」について、興味関心をもって主体的に学習できるように継続して指導することと知識・技能の定着の両立を図る。 ○式や、図、言葉などを用いて論理的に自分の考えを書くことは、数学を通して身に付けてほしい資質である。また、方法や手順を的確に記述したり伝えあったりすることは、他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする上で大切である。数学の記述式問題の解答の仕方について今後も継続して指導したい。 ○基礎学力の定着に向けて AI ドリルの活用を進める。 ○東中学校区の「HIGASHI ルーティン」に則って、生徒が主体的に学び、考えを深めていける授業の展開を図る。 ○東中学校区の「シェアタイム」を活用し、共有した意見をもとに個々の考えを深め、思考の再構築につなげられるようにする。
10	系統表の活用		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・第1期に作成した各教科における 9 年間の系統表を新学習指導要領の視点から見直す。 ・「教科のつながり伝承のページ」を利用して、教科間の学びのつながりを意識しながら指導する。 ・総合的な学習の時間の小中 9 年間を見通した計画を作成する。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 A 小学校から中学校の学びのつながりを意識させるとともに、教科等横断的な学びを意図的に組み込んでいく。 B 【P】 ①(1)系統表の見直しと教科等横断的な学びの場の設定。 ②【D】 (1) - ①「教科のつながり伝承のページ」の活用(全教科担当 通年) (1) - ②「総合的な学習の時間」を活用した教科横断的な学びの場の設定(カリキュラムマネジメントの見地を加味する)。(全教科担当 適宜) 【C】 学校評価による実態把握と検証。

11	ねらいを定めて書く活動		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・ねらいを定めて条件に応じて書く活動を全教科で行う。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ※NO.5 参照 →◎昨年度より肯定的回答の割合が高くなっており、「自分の考えを話したり書いたりする」活動の定着が進んでいると考えられる。 【P】 (1)「ねらいを定めて条件に応じて書く場面」の設定と指導の充実。 (2)「課題に正対したまとめ」、「視点を明確にした振り返り」への指導の充実。 (3)適切な評価による「書く力」の向上。 A 【D】 B (1) - ①全教科で、ねらいを定めて条件に応じて書く力を育成するための場面を適宜設定。教科の特性を生かした形での取組。(各教科担当、適宜) ③ (1) - ②表現力の向上を意図した書いたものを推敲する機会、他者が書いたものを評価しながら見る機会の設定。(各教科担当、適宜) D (2) - ①「課題に正対したまとめ」、「視点を明確にした振り返り」のための「振り返りカード」等の活用。授業における「まとめ」と「振り返り」が生徒自身の言葉で行えるよう意図。(各教科担当、適宜) (3) - ①より良い表現につながることを意図した、作品提示や意見感想等の発表時における教員からの細やかで心ある評価の実施。 (3) - ②管理職の授業参観における視点設定。(通年) ・「導入、課題設定が生徒の主体的な学びにつながるものとなっているか。」 ・「導入、課題設定(確認)から始まった授業が、まとめ、又は振り返り、さらにその両方までができるように1単位時間の授業が設定されているか。」 ・「振り返りが学びの深化と拡充につながるものとなっているか。」 【C】 (1) - ①学校評価の結果による分析。(各教科担当) (1)(2)(3) - ①教科部会による全国学調、県学調、越谷市検証テスト、定期テストの結果の分析・考察。 (1)(2)(3) - ②「東魂ノート大賞」の実施。教科担当による「理解までの過程」や「発想の記録」などが書かれた「思考の足跡」がわかるノートの選出、受賞ノートの掲示。(2学期)
----	-------------	--	--

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	越谷市授業改善学校生活に関するアンケートの分析	A	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・「自分にはよいところがある」という質問への肯定的な回答は3校とも高いが教員と児童の実感にやや差が見られる。
		B	・「よいところを認めてくれる」と感じている児童生徒は多いが、引き続き、児童生徒のよさを認める声掛けやよさを発揮できる機会の設定を行いたい。 ・「難しいことでも挑戦している」は中学生になると肯定的に回答する割合がやや下がる。
		③	<u>学校の分析結果</u> ◎「よいところを認めてくれる」の設問については、保護者、教職員、生徒自身の肯定的回答率はかなり高い。また、困難なことに挑戦する気持ち、姿勢については昨年度より伸びており、機会をとらえて生徒に働きかけ、学校をあげて「挑戦する姿勢」の育成に努めた成果であると考え。次年度も挑戦する機会を意図的、計画的に設定し、認め、励ます指導を継続して行う。
		D	

13	自己肯定感を授業の中で高める取組	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・相互評価を実施し互いに認め合える集団作りをする ・「できた」を実感できるスモールステップのある授業の実践 <u>学校独自の内容</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 学校生活は楽しく、友達とも仲良く過ごしている。自己肯定感や挑戦する気持ちについては、年々伸びてきている。 【P】 (1)挑戦を尊ぶ意識と自己肯定感の醸成 【D】 (1) - ①「自己肯定感の醸成」につながるよう、すべての教育活動での意図的、計画的、継続的な取組を実施。(全職員、通年) (1) - ②すべての授業で「授業改善8つのポイント」とそれにリンクする「HIGASHI ルーティン」の活用により、生徒が主体的に学ぶ「わくわく感のある授業」づくりを推進。(通年) (1) - ③自分で目標を決めて取り組む活動(例:体育の持久走など)の意図的な実践。(全教科、適宜) (1) - ④全校一斉で漢字・英単語・計算の3種のコンテスト(E-1 グランプリ)を実施。 ・事前学習→プレテスト→「教え合い学習」→本番という流れをとり、頑張りが伸びにつながることを実感できる取組とする。 ・1学期:漢字コンテスト、2学期:スペリングコンテスト 3学期:計算コンテスト (1) - ⑤全授業におけるシェアタイムの充実。(No. 4参照) (1) - ⑥定期テスト成績上位者の掲出、学習取組時間数上位者の掲出。(NO.8 再掲) (1) - ⑦全授業におけるAIドリル、e-board の活用。 (1) - ⑧キャリア教育講演会の開催。(1年生対象、2学期開催) (1) - ⑨授業LIVE配信の継続と充実(通年) 【C】 (1)越谷市授業改善・学校生活アンケート及び学校評価(6月、12月)の「自己肯定感」、「学校生活充実感」に係る項目の結果の分析・考察。
14	自己肯定感を授業以外で高める取組	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・行事や委員会活動等における役割分担 ・相互評価を実施し互いに認め合える集団作りをする <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 「自己肯定感」「学校生活充実感」に係る項目 ※NO.13 再掲 生徒、教職員には「東中愛」というキーワードが十分に定着していることが感じられる。 【P】 (1)挑戦を尊ぶ意識と自己肯定感の醸成 (NO13 と同様) 【D】 (1) - ①「自己肯定感の醸成」につながるよう、すべての教育活動での意図的、計画的、継続的な取組を実施。(全職員、通年)(NO13 再掲) (1) - ②校則の見直しと改編(生徒会本部役員、中央委員を中心に「校則検討会」で検討、生徒総会で採択) (1) - ③地区体育祭、地域防災訓練への参加 (1) - ④小学生との交流活動(運動会の手伝い 等) (1) - ⑤各委員会の活性化(委員長会、部長会 等) 【C】 (1) - ①越谷市授業改善・学校生活アンケート及び学校評価(6月、12月)の「自己肯定感」、「学校生活充実感」に係る項目の結果の分析・考察。 (1) - ②学校評価「東中愛」に係る項目の結果の分析・考察。

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
15	児童生徒間の交流 (行事・学習・作品など)	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・小中合同引き渡し訓練 ・運動会でのサポート ・特別支援学級の交流 ・中学校教諭による6年生の体験授業 ・キャリアノートの引継ぎ ・陸上競技大会に向けての合同練習 ・作品(絵画・書きぞめ・硬筆など)交流 ・朝のあいさつ運動 <u>学校独自の内容</u> 【昨年度を踏まえて今年度の課題】 ・ブロック内の取組については、ほぼ実施できた。 ・小学校の運動会の手伝いでは、参加生徒の自己有用感が高まった。また、小学生に中学生の活躍する姿を見せることで「頑張る中学生」をイメージさせることができた。 【P】(1)挑戦を尊ぶ意識と自己肯定感の醸成 (NO13 と同様) 【D】 (1)「自己肯定感の醸成」につながるよう、すべての教育活動での意図的、計画的、継続的な取組を実施。 (交流の例) ※NO.3 参照 ・小中合同引き渡し訓練 ・連携小学校の運動会の運営サポート ・陸上競技大会に向けてのスポーツサポート ・夏季休業中のスタディサポート ・特別支援学級の交流 ・作品(絵画・書きぞめ・硬筆など)交流 ・中学校教員による6年生の体験授業 ・朝のあいさつ運動 ・保健指導に係る交流 ・キャリアノートの引継ぎ ・作品交流・生徒発信のアイデアによる交流活動 ・スマホケータイ共有ルールの共通取組 ※教職員の働き方改革等の視点も鑑み、効果的な取組について検討・実践する。 【C】 (1)小中一貫推進委員及び交流部会のメンバーによる効果の検証(3学期)
16	合同部会、合同研修、相互授業など 教師間の交流	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・合同教科等部会の開催 ・合同研修の開催 ・相互授業参観(年間各校1回以上) <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえて今年度の課題】 <3校による「小中一貫教育に関するアンケート」より> ・小中連携対応教員が小学校へ赴き、直接児童の様子を見て、どのような支援が必要かなど小学校へ知らせることができた。 ・シェアタイムの効果的な取組方法を3校で分析することができたらよい。 ・「相互授業参観」の実施を増やし、小中・教科の連携や授業改善にもつなげていきたい。 【P】 (1)小中一貫推進委員会、各部会チーフ会を中心とした交流の充実。 (2)小中連携対応教諭による小学校との連携の強化。 【D】 (1) - ①小中一貫推進委員会、各部会チーフ会の実施。(NO.3 参照) (1) - ②合同研修(4月, 8月)の実施。 (1) - ③相互授業参観(年間各校1回以上)の実施。 (2) - ①小中連携対応教諭による連携小学校における授業参観、TT授業、関係部会への参加。 【C】 (1)小中一貫推進委員会による効果の検証。(委員会実施時)

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容	P	D	C	A
17	保護者・地域連携		ブロックでの共通内容・取組内容など ・学校応援団、ゲストティーチャーの活動状況等の情報共有 ・小中一貫教育便りの発行(学期1回) 学校独自の内容 【昨年度を踏まえて今年度の課題】 保護者や地域からは支持的、肯定的な声が多い。コロナで地域へ向けての活動が制限された期間が長期に渡ったが、本年度からは地域行事への参加も検討したい。 A 【P】 (1)積極的な情報発信と持続可能な地域交流 B 【D】 ① (1) - ①HP 更新や各種たよりの発行による学校の教育活動の積極的な発信。 ② (1) - ②地域行事への生徒の積極的に参加の体制づくり。(管理職、小中連携対応教員、小中一貫教育交流部会メンバーを中心に) ※学校運営協議会の協力を得て校内から体制を整える。(防災訓練 地区体育祭等) ③ (1) - ③学校応援団(アカシア会)との協働活動。 ※5 月に除草活動とプール清掃を実施。 ④ (1) - ④越谷東高校との生徒間、教職員間交流を図る。体験授業の実施。 ⑤ (1) - ⑤キャリア講演会(1 年)の実施 【C】学校評価による結果分析と検証(3学期。管理職、小中連携対応教員、小中一貫教育交流部会メンバーを中心に。)				